

令和元年度 食物栄養学科

自己点検・評価報告書

令和2年3月

富山短期大学 食物栄養学科





# 令和元年度 食物栄養学科 自己点検報告書

## 1. 建学の精神 (他部局で記載のため省略)

## 2. 地域・社会貢献

### (1) 現状

- ①下記の活動を実施して地域・社会に貢献している。
  - ・公開特別講演会を毎年1回開催し、県内栄養士および管理栄養士等の実践力向上に貢献
  - ・多くの専任教員が、県内市町村主催の研修会等の講師として協力。  
＜根拠資料＞本学HP上の富山短期大学地域連携活動年報
- ②教員と学生が協力して食育活動を行うなど、積極的に地域社会に貢献している。  
＜根拠資料＞活動記録は、本学HP上のブログに掲載

### (2) 課題

- ①公開特別講演会では、変化していく現場の栄養士および管理栄養士の要望を的確に把握し、テーマに反映していくことが求められている。
- ②学生が負担なく地域貢献活動に参加することができる仕組みを考える必要がある。

### (3) 次年度の実施計画

- ①県内市町村主催の研修会等の講師を可能なかぎり引き受ける。
- ②公開特別講演会では、近年注目されているタンパク質およびアミノ酸の摂取に関わる内容で、9月に実施する。
- ③学生が負担なく地域貢献活動に参加することができる仕組みを考える。

## 3. 教育目標

### (1) 現状

- ①学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。＜根拠資料＞学生生活のしおりP16～17
- ②学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。＜根拠資料＞学生生活のしおりP16～17
- ③毎年5～7月にかけて卒業生の就職先を訪問して、様子を確認するとともに栄養士の現場が求める人材を把握した上で学科会議でも情報を交換し、教育目的及び目標が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。＜根拠資料＞就職支援センターで訪問記録を集約して保管

### (2) 課題

- ①教育目的及び目標の中に、明解でない表現がみられる。誰もが共通のイメージをもつことができ、成果を検証できるような表現に変える必要がある。
- ②教育目的及び目標に関し、ステークホルダーから理解を得るための取り組みを確立する。

- ③教育目的及び目標に関し、人材養成の目的に中に含めて学生が認識できるように努める。

(3) 次年度の実施計画

- ①入学時オリエンテーションや教養演習や食生活論などの初年次教育の際に学生への教育目的・目標を周知する。
- ②学科会議で時間を確保して、教育目的及び目標の表現の明確化を図る。

#### 4. 学習成果

(1) 現状

- ①学習成果を、建学の精神および学科の教育目的・目標に基づき定めている。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 16～17
- ②学習成果を、「学生生活のしおり」やWebシラバスで各科目に「学修成果別評価基準(ルーブリック)」として記載し、学内外に表明している。＜根拠資料＞Webシラバス
- ③Webシラバスシステムを導入して、学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。＜根拠資料＞Webシラバス
- ④また、Webシラバスシステムを利用して、学生に毎時間及び各期末に「授業アンケート」を実施し、学生による学習成果の自己評価を数値化して、授業改善に生かしている。＜根拠資料＞Webシラバス

(2) 課題

- ①Webシラバスシステムを導入したことで、情報量が多くなり分析に時間を要するようになった。
- ②学習成果をさらに明確なものにする。一層、具体的で、一定期間内で獲得可能、測定可能なものにするように努めることが必要である。
- ③学習成果の獲得を評価・判定する仕組みを定める。さらには、評価・判定した結果をフィードバックする仕組みを定めることが必要である。

(3) 次年度の実施計画

- ①Webシラバスシステムを短時間で有効活用できる方策を検討する。
- ②学習成果が、定量的または定性的な根拠に基づき評価できるものとなるよう検討する。

#### 5. 三つの方針

(1) 現状

- ①ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 16～17
- ②毎年度末に学科会議で議論し、見直しを図っている。今年度は、昨年度策定された「栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」の内容に沿って、ディプロマ・ポリシーの見直しを行った。また、初年次教育の強化の観点から、カ

リキュラム・ポリシーも一部見直しを図った。＜根拠資料＞学生生活のしおり P 16～17

- ③3つの方針を踏まえた教育的活動を行っており、各年度の前期末及び後期末に、「授業アンケート」（教務部で管理）を学生に求めて、「3つの方針」の達成状況を確認している。＜根拠資料＞Webシラバス

(2) 課題

- ①授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。
- ②カリキュラム・ポリシーの見直しに沿って、学生の資質に対応した初年次教育を構築していく必要がある。

(3) 次年度の実施計画

- ①教務部と協議してアンケートの方法を見直し、回答率が上がる方策を考える。
- ②初年次教育を行う必修科目を設定し、その教育効果について調査していく。必要に応じて、初年次教育の内容を見直す。

## 6. 内部質保証

(1) 現状

- ①学内の自己点検・評価委員会と連動して、内部質保証に取り組んでいる。＜根拠資料＞自己点検・評価報告書
- ②Webシラバスシステムを導入して、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ③毎年度末に、学科の活動を学科会議で総括して「自己点検・評価報告書」を作成している。＜根拠資料＞自己点検・評価報告書
- ④外部評価委員会の場で自己点検・評価活動を報告し、高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。＜根拠資料＞事務部で外部評価委員会資料を保管
- ⑤報告書では現状・課題を踏まえて次年度への改善計画も記しており、積極的に改革改善に活用している。＜根拠資料＞自己点検・評価報告書

(2) 課題

- ①時間に追われて毎時の授業アンケートができないこともある。日常的な自己点検・評価の方法を工夫する必要がある。
- ②今回から、自己点検・評価報告書の形式を変えることになった。点検項目をしぼり、記載内容の充実を図ることが課題である。
- ③建学の精神、教育目的・目標、学習成果、三つの方針、内部質保証の項目に関しては、「内部質保証ルーブリック」で、さらに上のレベルを目指す。
- ④全専任教員で、教育の質保証を図る査定の仕組みを構築する。

(3) 次年度の実施計画

- ①日常的な自己点検・評価の方法を学ぶ機会をつくる。
- ②年度末に今年度の振り返りを行い、より充実した自己点検・評価報告書作成に反映し

ていく。

## 7. 教育の質

### (1) 現状

- ①Webシラバスシステムを利用して成績の分析や授業アンケートの分析を行うことにより、学習成果を可視化し査定する手法を取り入れている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ②毎年、成績の分布や授業アンケートの結果を分析して、学科ごとに「教育課程改善レポート」を作成し、査定の手法を点検するとともに、教育の質向上に活用している。＜根拠資料＞教育課程改善レポートは教務部で集約保管
- ③FD研修会で授業改善報告会を実施したり、授業改善事例集の作成を通して、教育の向上・充実に努めている。＜根拠資料＞教務部でFD研修会を管理
- ④教務部を通じて関係法令の変更等をメールや回覧で確認しており、法令を遵守している。＜根拠資料＞教務部で管理

### (2) 課題

- ①授業アンケート結果をみると、年度ごとに回答率にばらつきがある。安定かつ、高い回答率を得ることが望まれるが、まだ不十分である。

### (3) 次年度の実施計画

- ①1年前期から期末のアンケートに回答する習慣をつけるようホームルーム等で数回にわたり周知する。
- ②「各教員に授業アンケートの結果を踏まえての具体的な改善策を求め、授業アンケートでの満足度の向上をめざす。

## 8. 学位授与方針

### (1) 現状

- ①学科の卒業認定・学位授与の方針を定めている。＜根拠資料＞学生生活のしおりP18～19、23
- ②学科の卒業認定・学位授与方針は学科の学習成果に対応しており、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も明確に示している。＜根拠資料＞学生生活のしおりP18～19、23
- ③学科の卒業認定・学位授与の方針は、毎年科内会議および教務委員会にておいて点検している。点検にあたっては、「栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」の内容に沿うようにしており、社会的・国際的に通用性があると考え。＜根拠資料＞学生生活のしおりP18～19、23

### (2) 課題

- ①「学生しおり」などに学位授与方針を記載しているが、学生に対して周知が十分であるとはいえない。
- ②社会の変化等に合わせて、学位授与方針の継続的な見直しが必要である。

(3) 次年度の実施計画

- ①入学時オリエンテーションなどにおいて、学生への周知をより丁寧に行っていく。
- ②学位授与方針の見直しを継続して行う。

## 9. 教育課程編成・実施の方針

(1) 現状

- ①学科の教育課程編成・実施の方針を明確に示している。〈根拠資料〉学生生活のしおり P 16～36
- ②学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。〈根拠資料〉学生生活のしおり P 18～21
- ③学科の教育課程は、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。学習成果に対応した授業科目を編成し、細則を作成して単位数の上限を定める工夫をし、成績評価は短期大学設置基準等にのっとり適切に判定している。シラバスには必要な項目をすべて網羅し、学修成果別評価基準（ルーブリック）の記載も整備している。〈根拠資料〉Webシラバス
- ④学科の教員は、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。
- ⑤教育課程の見直しについては、学科会議で定期的に行うとともに、年度末に「学科教員と兼担、非常勤講師による教育課程等懇談会」を開催して、意見を聴取している。〈根拠資料〉教育課程等懇談会議事録

(2) 課題

- ①教育課程が今年度から少し変更となった。教員間の共通理解を図る必要がある。

(3) 次年度の実施計画

- ①週1回の学科会議などで、教育課程に対する共通理解をこまめに図る。
- ②改善すべき点があれば、対応策を考える。

## 10. 幅広く深い教養

(1) 現状

- ①短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実施体制も確立している。〈根拠資料〉学生生活のしおり P 18
- ②「教育課程編成図」を作成して、教養科目と専門科目の関連性を明確にしている。〈根拠資料〉Webシラバス
- ③食物栄養学科独自の初年次教養教育として令和2年度より「教養演習」を開講予定である。食物栄養学を学び研究する際に必要な基本的なスキルを学ぶとともに、幅広い教養を身につけ専門科目に順応できる学ぶ力・意欲・姿勢を身につけることを目的としており、専門教育との接続を図っている。〈根拠資料〉Webシラバス内の教養演習のシラバス
- ④教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。〈根拠資料〉Webシラバス



## (2) 課題

- ①教養科目である「日本国憲法」「化学の基礎」「国語表現」「英語Ⅰ、Ⅱ」は、いずれも非常勤講師、兼担教員が担当している。連絡が取りにくいために学生の学修状況がわからない部分が多い。教育課程懇談会を開催して本学科以外の教員の意見を取り入れる機会を設けているが、参加率が思わしくない。なお化学の基礎に関してはプレースメントテストを行っている。

## (3) 次年度の実施計画

- ①本学の特徴的な教養科目である「現代社会と人間」の受講者が、本年度から増加した。来年度も、本年度以上の履修者数となるよう学生への働きかけを工夫する。
- ②非常勤講師、兼担教員に関しては、教育課程懇談会へ参加を促し、本学科の教員と情報を共有し、学生の満足度も上がるように指導改善を依頼する。

## 11. 職業教育

### (1) 現状

- ①短期大学設置基準にのっとり、「栄養士免許状」の取得に必要な栄養士養成課程を実施し、職業教育に取り組んでいる。  
＜根拠資料＞学生生活のしおり P 18～23
- ②「給食管理校外実習」の授業科目において、一人一人が課題をもって主体的に学外実習に取り組めるよう、実習施設の特性に応じた給食運営について事前学習を行うとともに、コミュニケーション能力等のスキルを向上させるための指導を行っている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ③Webシラバスシステムを利用して授業アンケートの分析を行い、職業教育の効果を評価し、改善に取り組んでいる。＜根拠資料＞Webシラバス
- ④特別講演会を実施し、栄養に関する最新の知見、栄養士として必要な知識を学ぶ体制を整えている。＜根拠資料＞2019 富山短期大学公開講座募集のご案内 P 7

### (2) 課題

- ①専門職として就職することへの責任感や仕事をする上での心構えが低下している。

### (3) 次年度の実施計画

- ①就職先からのアンケートの結果を共有し、職業教育の質の向上に取り組む。
- ②専門職に就職することへの不安をやわらげ、専門職への就職率を例年並みに維持することを目標として指導に当たる。

## 12. 入学者受入れ方針

### (1) 現状

- ①入学者受入れの方針は、学習成果に対応している。
- ②学生募集要項に入学者受入れの方針を、明確に記載している。＜根拠資料＞学生募集要項 P 1
- ③入学者受入れの方針には、高等学校で修得しておいてほしい内容についても記載しており、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。＜根拠資料＞学生募集要

項P1

- ④入学者受入れの方針に対応するように、選考方法を設定している。＜根拠資料＞学生募集要項
- ⑤高大接続の観点から、学校推薦、自己推薦、一般入試および大学入試センター試験など多様な選抜を実施しており、それぞれの選考基準を学生募集要項に明示して、公正かつ適正に実施している。＜根拠資料＞学生募集要項
- ⑥授業料、その他入学に必要な経費を学生募集要項等に明示している。＜根拠資料＞学生募集要項
- ⑦入試広報センターを設置して入試業務を行っており、学生募集要項に連絡先を明示して受験の問い合わせなどに対して逐次に対応している。＜根拠資料＞学生募集要項
- ⑧県内を中心に高校訪問を行い、高等学校関係者の意見を収集して、入試内容等について定期的に点検している。＜根拠資料＞入試広報課で集約管理している

(2) 課題

- ①新しい入試制度への対応と継続的な点検が必要である。
- ②高等学校の要望や意見等については、県内を中心に意見を収集しているが、入学者受入れ方針について重点的に意見収集は行っていない。

(3) 次年度の実施計画

- ①オープンキャンパスや入試説明会で、入学者受け入れ方針について受験生への周知を図る。
- ②入学者受入れ方針について、重点的に高等学校の意見を収集し、必要に応じて見直しを図る。

### 13. 明確な学習成果

(1) 現状

- ①ディプロマ・ポリシーに学科の学修成果を具体的に明示してある。Webシラバスで各科目において学修成果別評価基準（ルーブリック）を記載して、学習成果の具体化及び測定可能化を図っている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ②ほとんどの学生が2年間で学習成果を獲得しており、栄養士免許を取得し卒業している。＜根拠資料＞資格取得状況に関する教授会資料

(2) 課題

- ①「学修成果別評価基準（ルーブリック）」の記載で、科目によって粗密の差がみられる。
- ②ごく一部ではあるが、栄養士免許を取得できないケースがある。

(3) 次年度の実施計画

- ①学科長および教務委員において、各科目もシラバスを点検する。

### 14. 学習成果を測定する仕組み

(1) 現状

- ①卒業時に資格試験の取得状況を記載した資料を配付している。＜根拠資料＞第56回

卒業式次第

- ②1年次入学時および卒業時に、学生に対して自己評価に関するアンケートを行っている。＜根拠資料＞教務部にて集約管理

(2) 課題

- ①授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

(3) 今年度の実施計画

- ①教務部と協議してアンケートの方法を見直し、回答率が上がる方策を考える。

## 15. 学習成果を可視化する指標

(1) 現状

- ①Webシラバスにおいて、各人の成績（取得単位、GPおよびGPA）を見ることができるようになっている（学生情報ファイル、SIF）。また、科目分野別にもレーダーチャートで自分と学科平均のGPAが比較できるようになっている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ②教員は、担当科目の学生アンケート結果から、学生の自己評価がレーダーチャートとして見られるようになっている。＜根拠資料＞Webシラバス

(2) 課題

- ①SIFを用いた学習成果の可視化が、教育改善にまで十分に結びついていない。

(3) 今年度の実施計画

- ①学年始めに行っている担任との面談時に、SIFを活用する。また、成績不良学生の学習支援においても、SIFを活用していく。

## 16. 卒業後評価への取り組み

(1) 現状

- ①学科教員が毎年5月前後に卒業生の就職先を訪問して聴取した評価を情報共有し、卒業生の優れている点と至らない点について把握することで、学習成果の点検を行っている。＜根拠資料＞訪問記録は就職支援センターで集約保管

(2) 課題

- ①訪問時期が早いため、適正な評価ができず評価が不十分な場合もあるが、卒業生の様子を確認するためにもこの時期での実施が必要である。
- ②基本的マナーやビジネススキルが低下傾向である。

(3) 今年度の実施計画

- ①就職先訪問を継続し、各施設で卒業生の状況を聴取する。
- ②聴取した評価内容をまとめ、学科内で情報共有を図る。

## 17. 教育資源の有効活用

### (1) 現状

- ①教員は学習成果の獲得に向けて責任を果たすため、Webシラバスシステムを利用して成績や授業アンケートを分析し、授業改善レポート等を作成して授業改善を心掛けている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ②教室内のプロジェクター設備を有効活用して、授業の改善に取り組んでいる。

### (2) 課題

- ①学生の図書館の利用頻度が少ない。
- ②学内のコンピューター設置状況が学生数に対して少ない。

### (3) 今年度の実施計画

- ①付属図書館の図書貸出状況が今年度よりも多くなるよう、授業等を工夫する。
- ②パソコン環境の整備について、事務当局とも連携して対策を考える。

## 18. 学習支援

### (1) 現状

- ①推薦試験合格者に対して入学前セミナーを実施し、入学前までの心構えを指導している。＜根拠資料＞入学前セミナー課題プリント
- ②入学者に対しては、学習、学生生活のためのオリエンテーションを実施している。＜根拠資料＞学年始行事予定表
- ③教養科目の「教養演習」を通じて、学習の動機づけに焦点を合わせた学習の方法をガイダンスしている。＜根拠資料＞Webシラバス内の教養演習のシラバス
- ④学習成果の獲得に向けて「学生生活のしおり」などを作成し配布している。また、Webシラバスシステムを利用して、学生が自分の学習成果をレーダーチャート等で可視化して分かるようにして学習支援の整備を図っている。＜根拠資料＞Webシラバス
- ⑤学習成果の獲得に向けて、各教員で小テスト等の工夫をしている。それでもまだ基礎学力が不足する学生に対しては、各授業担当者が適宜指導を行っている。
- ⑥学習上の悩みなどを持つ学生に対しては、担任が健康支援センターと連携して支援する体制をとっている。
- ⑦Webシラバスシステムを利用することで、学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。＜根拠資料＞Webシラバス

### (2) 課題

- ①わずかではあるが学力に難のある学生がいる。

### (3) 今年度の実施計画

- ①学力に難のある学生に対しては個別指導を行う。

## 19. 生活支援

### (1) 現状

- ①学生部と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。  
(詳細は学生部で記載のため省略)
- ②平成31年度入学生は、退学者が2名、休学者が2名に及んだ。<根拠資料>教授会資料

## (2) 課題

- ①カウンセリングを必要とする学生が増えている。
- ②一人親家庭など経済的支援を必要とする学生が増えている。
- ③学習や人間関係等に躓いて、順調に学生生活を送れない学生が増えている。

## (3) 今年度の実施計画

- ①学生部との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。
- ②入学して間もなくから学業に専念できない学生がいることを想定して、早期に個別や集団面接を取り入れ、保護者、担任、学生等との連携を図り、学生生活の支援や相談を行っていく必要がある。
- ③学生の社会性や主体性を育むため、ボランティア活動の回数を今年度よりも増やすことを目標とし、学生に働きかける。

## 20. 進路支援

### (1) 現状

- ①就職支援センターとの連携により、積極的に進路支援を行っている。  
<根拠資料>就職支援センターで集約管理
- ②学科内では、担任と就職支援委員が中心となり、きめ細かい就職支援を行っている。  
<根拠資料>進路支援計画
- ③ビジネススキル演習では、ビジネスマナーに関する内容や卒業生を招き「就職活動の実際と心構え」について話を聞く機会を設け、就職に対する学生の意識の高揚に努めている。<根拠資料>Webシラバス
- ④給食会社説明会を実施し、栄養士が働く職種、雇用形態などを理解し、各自に合った就職先を見つけられるよう支援している。<根拠資料>給食会社説明会資料

### (2) 課題

- ①学生の学力が低下傾向にあり、一層きめ細かい指導が必要になってきている。
- ②就職に対して意欲的に取り組むことができない学生に対して、早期から保護者の方との連携が必要である。

### (3) 次年度の実施計画

- ①就職支援委員と担任及び就職支援センターとの連携を密にして、不安を抱える学生への指導を充実させる。

## 21. 健康支援

### (1) 現状

- ①学生部・保健室との連携により、早期からの課題発見に努め、対応を検討し支援して

いる。

- ②学科内では、入学時から担任が適時、面談やアンケートを行って問題を把握し、場合によっては保護者とともに心身の健康をサポートしている。経過は「学生指導の記録シート」に記載している。＜根拠資料＞学生指導の記録シート
- ③欠席や遅刻等により受講に支障がある場合は、学生・保護者と問題を共有し、カウンセリングや医療機関等の情報提供を行う。
- ④体調の不安は早期に把握し対応することが大切なので、遅刻や欠席の場合は速やかに学科や担任が連絡を受け、状況把握に努めている。
- ⑤一人の空間が必要な学生は、学科内のロビーを仕切った空間を活用し、休憩時間の落ち着く場所として活用している。

## (2) 課題

- ①友人関係を構築できず、孤立している学生が増える傾向にあり、一層きめ細かい指導が必要になってきている。
- ②時間割変更や連絡を見落とし、欠席や遅刻となり、学習に支障をきたす学生もいるため、ホームルームを含めて出席確認と、連絡事項の掌握について周知する必要がある。
- ③入学時に実施する血液検査で、抗体価が低い学生がいる。結果を把握し、学生生活や校外実習に支障がないように早期からの呼びかけが必要である。

## (3) 今年度の実施計画

- ①学生部および新設される健康支援センターと連携を密にして、健康課題の早期把握と対応に努め、個別指導が必要な学生への指導を充実させる。
- ②着実に授業を受け、学力・技術・人間力を身につけて、社会で活動することへの不安をやわらげ、栄養士免許を取得して卒業できることを目標として指導に当たる。

(22～25の点検項目は他部署で記載のため省略)

## 26. 教育研究活動

### (1) 現状

- ①専任教員は、学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。  
＜根拠資料＞学生指導の経過シート、今年度の研究業績
- ②他のチェックポイントについては、教務部を中心として十分に取り組んでいる。  
＜根拠資料＞教務部で集約

### (2) 課題

- ①学生への指導および様々な書類の作成に要する時間が多くなり、研究活動の十分に取組めない。
- ②会議等も増大する傾向にあり、教育研究活動にかかる時間が確保できないことがある。

### (3) 今年度の実施計画

- ①学生指導の経過シートを活用し、情報共有化を図る。
- ②教育研究活動の時間を確保するため、科内会議の時間短縮を目指す。

(27～38の点検項目は他部署で記載のため省略)